

高松市総合教育センターだより No.28

〒760 - 0060 高松市末広町 5 番地

TEL(087)811 - 2161 FAX(087)811 - 2170

http://www.edu-tens.net E-mail:kyouikuken@edu-tens.net

令和3年3月発行

「第4回教育フォーラム in 高松」をオンラインで開催!!



テーマ
ICTを活用した
これからの高松の教育

特別講演とパネルディスカッションの2部構成により、活発な意見交換が行われました。

<パネラー>	平井卓也	デジタル改革担当大臣	山口功作	総務省地方自治体 DX 検討会委員
	柴田美紀	高松市 PTA 連絡協議会副会長	陶山美鈴	高松市立東植田小学校校長
	藤本泰雄	高松市教育委員会教育長		
<進行>	谷 益美	株式会社 ONDO 代表		

本年度の教育フォーラムは、新型コロナウイルスの感染防止のため、初めてのオンライン形式で2月13日(土)に開催いたしました。

国のGIGAスクール構想を受けて、整備を進めております1人1台端末などのICT環境は、いよいよ4月から本格的な運用が始まります。そこで、高松市出身であり、国のデジタル改革を先頭に立って推進している、平井卓也デジタル改革担当大臣の講演と大臣も参加したパネルディスカッションを通して、「ICTを活用したこれからの高松の教育」について議論を深めました。

教職員、保護者、子どもたち、一般市民の皆様など約150人の方々に、オンラインで参加いただき、パネルディスカッションでは、皆様からの質問にもお答えするなど、楽しい雰囲気の中で、活発な意見が交わされ、有意義なフォーラムとなりましたことに、心から感謝申し上げます。

高松市総合教育センター 所長 中浦 将治

【平井卓也デジタル改革担当大臣による特別講演の概要】

教育のデジタル化を学びという視点で考えたとき、子どもも大人も年齢に関係なく、新しい学びに取り組みたくなるような触発（インスパイア）が大切である。そして、教育現場では、子どもたちが目的意識をもって新しいことを生み出すために、チャレンジすることをどのように後押しするかが非常に重要である。

教育のデジタル化は、やらされるものではない。それぞれの現場がインスパイアされて、新しいことに主体的にチャレンジしてほしい。

決まったマニュアルなどではなく、考えながらやるしかないと思う。先生方は、単に知識を教え込むのではなく「ティーチング」から「コーチング」に変わるということ。一方通行の授業ではなく、個別最適化された学びを実現するということだ。

様々な学校で取組が行われ、成果も報告されている。そのようなベストプラクティスを共有しながら、日本流のデジタル教育をみんなの力でバージョンアップしていきたい。

高松市でもスマートシティ、スーパーシティに取り組んでいると思うが、それは、今そこに住んでいる人たちだけが便利になるということではなく、次の時代を見据えて考えてほしい。今の子どもたちが世の中の中心になったときにあるべき社会を考えてほしい。幾つになっても学ぶチャンスがある国でありたいと思う。



【平井大臣の講演のグラレコ(谷さん作)】

【パネルディスカッションの概要 テーマ「ICTを活用したこれからの高松の教育」】

「デジタル化によって未来の教育はどうなっていくのか」

ティーチングからコーチングへ

今まで教育現場では、教えることが当たり前だった。これからは、コーチング。教育の根本を見つめ直して、実践できる大きな機会が来た。 (山口委員)

子どもの意欲に火をつける

子どもが、たくさんの情報から取捨選択し、話し合っって課題を解決していくことが大切。教育の最大のミッションは、意欲に火をつけることだ。そのためにデジタルは有効な戦力になる。 (陶山校長)

「デジタルは人と人をつなぐ」

デジタルは人と人をつなぐ。デジタルは無限に人と人をつなぐ可能性がある。 (平井大臣)

「ICT活用への不安を払拭するために」

保護者にはまだ浸透していない

GIGAスクール構想について、まだまだ保護者には浸透していない。保護者が取り残されないよう、市P連でも情報発信をしていきたい。 (柴田副会長)

サポート体制

国はサポートのための予算も出す。困ったときに助け合う仕組みも必要。 (平井大臣)

子どもの主体性を導く

子どもたちの方が先生よりもよく知っている。よく長けている。心配しなくても子どもは育つ！親も先生も子どもの主体性を導き出すことが大切。 (山口委員)

○ 個別最適の学び

子どもたちがどうやって正解を探してくるのかを教員が導く役目になっていく。 (藤本教育長)

「教員のモチベーションをどう上げるか」

子どもたちと向き合う時間を生み出すことが ICT 化の目的のひとつ

教育の ICT 化の目的の一つ。そして、教員が悩みを相談できる掲示板など、教員同士のコミュニティを設けることが必要。 (山口委員)

教員研修の充実

教員研修の充実が必要である。総合教育センターが ICT を活用した授業づくりや機器の操作に関する教員研修を行い、スキル向上のための研修を充実していく。 (藤本教育長)

教員の ICT に対して感じている壁や敷居を低くする

困ったときに Q&A やマニュアルのほか、ICT を支援する加配をぜひお願いしたい。子どもたちは、タブレットを使って、自分の画面と友達の画面とを比べるような学び合いのある授業が好き。自分の居場所を感じられ、活躍できると思える授業にすることが大切。 (陶山校長)

「大人の我々が心がけること」

大人同士もつながる

コロナ禍ということもあって、保護者同士のつながりがより希薄になっていると感じるが、つながりをもてるように考えていきたい。 (柴田副会長)

失敗から学ぶ

失敗は学びのチャンス！常に挑戦し続ける中で、皆がそれぞれの立場で試行錯誤しながらよりよいものを作ってほしい。 (平井大臣)

子どもたちの情報活用能力を身につけさせること

正解は教師が持っているものではなく、子どもと一緒に考えて、導き出すものということをどのように子どもたちに伝えていくのが大切。 (藤本教育長)

体への影響への配慮

子どもたちの目を疲れさせないように教員が指導していくということも必要。 (陶山校長)

「まとめ」

これまでの教育がティーチングスタイルであったとするなら、これからはコーチングスタイルになっていく。

教師が教えることが中心であったものから、子どもの中から答えを引き出すことへと変えていく。

それをどのようにサポートしていくのか、いかに ICT を活用していくのかについて、具体的に議論できたことが、今後に向けての大きな第一歩になった。 (谷さん)



【パネルディスカッションのグラレコ(谷さん作)】

【参加者アンケートより】

よい刺激を受けました。

元気をもらいました。

教員の意識改革が早急の課題だと思います。

学校現場での普及のためには、悩みやつながる先などを共有できるプラットフォームの整備が急がれると思います。

平井大臣の「失敗は学びのチャンス」という言葉が心強く感じました。

何歳になっても学び続けられる希望を感じました。

高松市内の小中学校にはミッターメールシステムという便利なツールもあるので、うまく活用して情報を提供していただきたいです。

高松市が日本の中でのデジタル先進県となって、若者が集まり、子どもから大人までが幸せに暮らせる都市になることを願っています。



学習に関する現職教育サポート事業

本年度も、申し込みのあった学校の現職教育の取組を支援するという形で実施しました。香川大学准教授 岡田涼先生に指導・助言をいただきながら、今後の研究の方向性について協議を深めました。

高松市立鬼無小学校



研究テーマ

「自己の考えを広げ、深め、協働しながら学ぶ喜びを感じる児童の育成」
 思考力を育成するために、始めは「思考ツール」を主な手段として捉えていこうとしましたが、試行錯誤を経て、鬼無小独自の「思考力マップ」を生み出しました。それを基に思考力をどのように捉えてくのかについて協議を重ねました。児童にどのような思考をさせたいか、そのためにどのような支援をするか、そして、どのようにそれを見取るかを連動させて研究を進めていくことが求められると岡田先生から助言がありました。

高松市立香川第一中学校



研究テーマ

「自ら判断し、未来を切り拓く生徒を育てる生徒指導のあり方」
 令和4年度「香川県中学校教育研究会生徒指導部会研究大会」の開催に向けて、ユニバーサルデザインの視点に立った授業を年間3回、合計9本を校内現職教育で実施し、研究テーマの実現に向けた取組が行われました。
 双方向的な話し合いや振り返りの充実などの授業内の積み重ねが、生徒指導にも効果的に現れるよう、授業で生徒指導の効果を明確にするための方向性などについて、岡田先生から助言がありました。

来年はオンライン高松塾！

新型コロナウイルス感染症対応のため、今年度は3回のみで開催となりましたが、約80名の先生方に参加していただきました。総合教育センターでは、さらに若年の教員が主体的に学べる場を提供していきたいと思います。来年度も是非ご参加ください。

【令和3年度の高松塾の予定】時間帯はいずれも9：00～11：00

日時	内容	備考
第1回 5月15日(土)	○学級経営の基礎・基本 「支持的風土のある学級づくり」	オンライン研修
第2回 6月19日(土)	○授業づくりの基礎・基本 「ICTを活用した授業づくり」	オンライン研修
	○「発達障がい及び不登校悩み相談・座談会」	【場所】 教育支援センター 「新塩屋町 虹の部屋」
第3回 9月18日(土)	○学級経営の基礎・基本 「生徒指導について」	オンライン研修
第4回 10月16日(土)	○授業づくりの基礎・基本 「各教科における授業づくり(選択制)」	オンライン研修
	○「発達障がい及び不登校悩み相談・座談会」	【場所】 教育支援センター 「みなみ」
第5回 11月20日(土)	○学級経営の基礎・基本 「不登校への対応」何でも悩み相談・座談会」	オンライン研修



困ったときは TENS 内部ホームページへ

導入機器やソフト等のマニュアルやお問い合わせについて発信しています。

今年度、1人1台端末や校内ネットワークの整備など、様々なICT環境の整備を行いました。新たな機器の操作や導入しているソフト等の使い方について、マニュアルやQ&Aを掲載していますので、ご活用ください。

また、各学校で実践された指導案やICTの活用の実践事例集も随時更新していますので、ご覧ください。

「すららドリル」や「ZOOM」のマニュアルやQ&Aを掲載しています。

ICT関係について、お問い合わせいただいた内容を共有しています。



ICT教育推進委員等の実践事例を紹介しています。

電子黒板の操作マニュアルを掲載しています。

幼児教育係 ~ 新設から1年 ~

新設から1年が経とうとしています。コロナ禍の中、保育所・こども園・幼稚園の現状を踏まえながら、私たちができることを模索しながら取り組みました。次年度は更なる充実を目指します！

画期的!!

保こ幼の研修の一元化

教職員育成指標の見直しやキャリアステージに応じた研修体系を作成し、令和3年度より保育所・こども園・幼稚園の保育教育士として同様の研修を積み重ねていきます。

要請訪問

幼稚園、こども園の要請訪問に加え、今年度から保育所とこども園の0、1、2歳児を対象とした「乳幼児保育における要請訪問」を開始しました。

高松っ子いきいきプラン改訂版

活用推進協議会(R2~R3)において、園・所内研修等での効果的な活用事例を取りまとめ、改訂版の活用方法の情報提供をします。

小学校教育との接続

幼児期に培う力が、小学校以降の生活や学習の基盤につながることを配慮し、教職員連携や学びの連続性を踏まえた教育内容の充実を図る等、豊かな心と健やかな体、確かな学力を育む「保こ幼・小連携」教育の在り方について研究しています。
(R1~2年度 弦打幼・小・保)

就学等教育相談

小学校への滑らかな接続を目指し、就学等教育相談では、子どもと遊ぶ中で特性を把握する等、支援係と協力体制をとっています。

切れ目なく支援を継続するために

～支援係から～



総合教育センターHPより
ダウンロード可能

現在の所属先で受けていた効果的な支援が、次の進学先でも切れ目なく継続できるように、サポートファイル「かけはし」の補助シートとして、高松市で平成29年度から本格運用されている「移行支援シート」をぜひ活用してください。

移行支援シートは、幼・保・こ 小、小 中、中 高の3種類あり、入学後おおむね1か月程度の期間に必要な支援や配慮について子どもの担当者等が、具体的に記載します。引継ぐ内容について、保護者の承諾を得ておくことにより、関係機関同士が顔を合わせ、説明を加えながら引継ぐことができます。また、保護者にも渡して、「かけはし」に綴じておいてもらうとよいでしょう。

校種間連携のポイントは？

- 入学前に、現在所属している場所で、子どもの様子を実際に見る機会を設け、支援や配慮の仕方を学び、入学後に子どもが安心できる環境づくりに役立てる。
- 気にかかる子どもや保護者の話をよく聞いて、不安を軽減したり、課題を解決したりする方向で合意形成を図っていくことを通して、信頼関係を築く。
- 教職員同士で情報を共有し、チームとして、効果的な支援や配慮が行えるように準備する。

不登校児童生徒への支援について



教育支援センター利用状況

	新塩屋町 虹の部屋	みなみ	計
1学期末	41名	22名	63名
2学期末	49名	27名	76名

ICTを活用した学習支援システム利用状況

	小	中	計
1学期末	11名	57名	68名
2学期末	26名	92名	118名

フレンドシップ事業

進路説明会	106名
四国水族館	68名
in オータム	66名

不登校を考える会

6月	中止
9月	保護者 31名

親の会～夜会～

8月	保護者 7名
1月	保護者 14名



カウンセラーによる教育相談

不登校相談等	約 113 件
--------	---------

令和3年1月末現在

令和元年10月25日に、文部科学省から「不登校児童生徒への支援の在り方について」と題した通知がありました。これは、これまでの不登校施策に関する通知について改めて整理し、まとめられたものです。この通知によって、今後の不登校児童生徒への支援は、学校復帰だけを目的とせず、将来「社会的に自立することを目指す」ことの重要性が再確認されました。

本市においても不登校への対応は重要課題の一つとして捉え、各種施策を実施しています。「ICTを活用した学習支援システム」をはじめ、GIGAスクール構想の実現に向けたICT環境の整備の一環として、ビデオ会議システムによる学習支援やAI型ドリルを導入し、ICT等を活用した支援の充実に努めています。

